



練成問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

- イ 人々が、石地藏のやさしさに今も心を寄せていること。  
 ウ 人々が、まま母のしたことをずっと忘れないでいること。  
 エ 人々が、子どもの純粋さをいつまでも大切にしていること。  
 □(5)「ぼた餅や…」の俳句から伝わってくる感じとして適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア あたたかさ    イ たくましき    ウ 楽しき  
 エ さみしき    オ ゆたかさ    カ のどかさ

ねずみ<sup>①</sup>の娘を<sup>\*</sup>まうけたるが、天下に並びなき婿<sup>むこ</sup>をとらんと、<sup>\*</sup>おほけなくて<sup>a</sup>思ひ企てて、<sup>\*</sup>日天子こそ世を照らし<sup>b</sup>たまふ<sup>\*</sup>徳めでたけれと思ひて、朝日のいでたまふに、娘をもちて候ふ。みめかたちならかに候ふ。  
 c<sup>\*</sup>まゐらせんと申すに、われは世間を照らす徳あれども、雲に会ひぬれば光もなくなるなり。雲を婿にとれとおほせられければ、<sup>\*</sup>まことにと思ひて、<sup>5</sup>黒き雲の見ゆるに会ひて、このよし申すに、われは日の光をも隠す徳あれども、風に吹き立てられぬれば、<sup>\*</sup>何にてもなし。風を婿にせよと言ふ。<sup>②</sup><sup>\*</sup>さもと思ひて、山風の吹けるに向かひて、このよし申すに、われは雲をも吹き、草木をも吹きなびかす徳あれども、<sup>\*</sup>築地に会ひぬれば力なきなり。築地を婿にせよと言ふ。<sup>\*</sup>げにと思ひて、築地にこのよしを言ふに、われは風にて動かぬ徳あれども、ねずみに掘らるとき、耐へがたきなりと言ひければ、さては、ねずみは何にもすぐれたるとて、ねずみを婿にとりけり。

(注) まうけたる＝持っていた。 おほけなく＝あつかましく。

日天子＝太陽。 徳＝身につけている力。能力。

〔沙石集〕より

まゐらせん＝差し上げましょう。 まことに＝なるほど。  
 何にてもなし＝どうにもならない。 さも＝なるほど。  
 築地＝泥でつくった土塀。 げに＝なるほど。

- (1) 線a～cのことは歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改め、すべてひらがなで書いて答えなさい。

|   |   |   |
|---|---|---|
| a | b | c |
|---|---|---|

- (2) 線①「の」の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 主格を表す格助詞であり、「ねずみが」と訳す。  
 イ 同格を表す格助詞で、「ねずみで娘を持っていたものが」と訳す。  
 ウ 連体格を表す格助詞であり、「ねずみの娘が」と訳す。  
 エ 名詞の一部で「ねずみ野」という場所を表す。

- (3) 線②「さも」とありますが、本文中のどの会話を受けてこのように思ったのですか。本文中からその最初と最後の三字を書き抜いて答えなさい。

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|

- (4) 「ねずみ」が、口に出して言っている言葉を探し、その最初と最後の三字を書き抜いて答えなさい。

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|

- (5) 「ねずみ」が娘の婿として四番目に考えたのは何ですか。本文中から書き抜いて答えなさい。

|  |
|--|
|  |
|--|

- (6) 本文を教訓話と考えた場合に、そこから考えられる教訓はどのようなものですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

